

# [日本で初めてのジェネリック農薬] [ペンコゼブ]

## ペンコゼブの開発の背景

特許が切れた農薬について、登録に必要なデータ（安全性や効果データなど）を準備して登録販売する剤をジェネリック農薬と呼んでいます。

ペンコゼブ水和剤は、JA全農が低コストな生産資材供給の一つの手段としてメーカーと共同で開発したマンゼブ剤で、「日本で初めての本格的なジェネリック農薬」です。水和剤とフロアブルがあり、水和剤は、カンキツ、パレイショ場面を中心に果樹、野菜の各種病害に広く登録を取得しています。フロアブルは、園芸用に水和剤に比べ、より使いやすい製剤として開発され、果菜類、ブドウ、ネギなどの各種病害に高い効果を発揮します。



## ペンコゼブの特長

幅広い病害に有効（水和剤・フロアブル）

ペンコゼブの有効成分のマンゼブは、病原菌の呼吸系を阻害します。呼吸系は多くの種類の病原菌で共通であるため、幅広い病害に効果を発揮します。

耐性菌発生のリスクが少ない（水和剤・フロアブル）

多くの殺菌剤で問題となっている耐性菌の発達の可能性も少なく、安心して使用できます。

薬液調製時の粉立ちがなく、作物の汚れも少ない（フロアブル）

有効成分を微粒子化して液体の製剤としているため、作物の表面にムラなく均一に付着します。このため、薬剤による汚れが目立ちにくく、また薬剤調整時も粉立ちがなく粉塵を吸い込む心配もなく、楽に安全に薬剤の調整ができます。

## 使い方のポイント

ペンコゼブは作物の表面にとどまって病原菌の侵入を阻止する効果には優れており、高い予防効果や、効果の持続性を発揮します。しかし、作物内へは広がらないため、治療効果は発揮されません。このため、ペンコゼブは、**病害の発生前～発生初期に予防散布で使用**することが上手に使用するポイントとなります。特に、ペンコゼブフロアブルは、安定した予防効果があり薬剤調製も容易で散布後の汚れも少ないことから、キュウリ、トマトなどの施設栽培でお勧めできます。

また、最後になりましたが、非常に安価な薬剤であることから、ローテーション防除の基幹剤として利用価値が高いものと考えています。